

評価委員会総合評価

研究課題名：気候モデルによる気候変動メカニズム解明に関する研究

評価委員

委員長：瀬上 哲秀

委員：三上 正男、中村 誠臣、齊藤 和雄、露木 義、山田 眞吾、
藤部 文昭、角村 悟、横田 崇、蒲地 政文、千葉 剛輝、井上 卓

評価年月日：平成 25 年 12 月 24 日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、気候モデルの開発と気候変動メカニズムの解明の2本立ての研究課題となっているが、この両者の研究内容の関連、相互のフィードバックが明確でなかった。また、モデルの高度化により、気候モデルとしての過去～現在気候の再現性、予測可能性の向上の程度、世界の主要気候モデルの中での位置づけや総括も十分とは言い難い。

一方で、過去再現実験についての報道発表については、積極的に取組み、気象研究所のプレゼンスを示すことが出来た点や、本研究が、気候モデルの改良を通して地球温暖化予測などに貢献した面は評価できる。

査読論文は、9編（うち4編が国際誌での主著者原著論文）となっており、課題担当者の数に比べ少ない状況であったことから、更に積極的な取組みをお願いする。

本研究では、十分な進捗が認められない点があった。具体的には、大気モデルの高度化に関する研究において、改良点が海洋性境界層雲のパラメタリゼーション等に限られた点や、当初計画していた気候実験の一部が、東日本大震災の影響によるスパコン運用制限もあったとはいえ、完了しなかった点を挙げる事ができる。

今後は、気候変動メカニズム解明に関して、国際比較実験へ参加することで得られた点は何かをしっかりと検証し、気候モデルの高度化に資する研究としての発展を期待する。